

令和4年3月24日

保護者 様

千葉大学教育学部附属特別支援学校
校 長 細 川 か お り

令和3年度学校評価アンケートの結果について

ご多忙にもかかわらず、令和3年度学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。学校評価の概要についてお知らせするとともに、ホームページに公表いたします。

※（1＝そう思う）（2＝まあまあそう思う）の合計数値を肯定的評価として、自己評価をしています。

I 情報発信・連携について

保護者の評価は、項目1～4までは90%以上、項目5は80%以上となっており、若干の増減はあるものの、概ね肯定的な評価でした。自由記述では、連絡帳での記載について感謝している記載も見られました。職員からは、項目2～4については90%以上の肯定的評価でしたが、項目1については、79%と昨年度と比較し、13ポイント減となっていました。次年度は、始業式及び入学式で行う学校目標や学校運営の重点目標の説明をより丁寧に実施できるように機会を設定していきます。項目5では、保護者の評価は昨年と同程度に対し、職員は7ポイント上昇の71%となっていました。コロナ禍の中、以前のような直接的な交流は実施が困難でしたが、オンラインを活用した交流がなされたことによる評価と考えられます。コロナ禍はもうしばらく続くことが見込まれるため、オンラインを活用した交流をより充実させ、新しい交流のあり方を模索していきたいと考えます。

II 環境・安全について

保護者からは、すべての項目に対して90%以上の肯定的な評価をいただきました。また、肯定的な意見の中でもAの割合が多くなっていました。一方、職員の評価では80%前後、項目7、10では、70%台となっていました。大規模な改修工事が終わったことから、保護者からは校内環境について高い評価を得られていますが、職員からは美化活動や、倉庫が不十分のため、整理状況について課題の指摘があげられています。安全管理については、年度途中で柵などを設置しましたが、仮置き状態のため、固定が不十分な点が指摘されていましたが、年度末にすべて壁に固定することとなっています。防災に関しては、学校危機管理マニュアルの見直しを行い、安心・安全な学校づくりを目指していきます。

III 年間計画・行事について

保護者からの評価は、どの項目も90%以上の高い評価をいただいています。今年度もコロナ禍の影響で行事の中止や縮小などがありましたが、授業参観の機会があることに評価をいただいている自由意見も見られました。職員からは、項目11の年間の計画について昨年度からさらに10ポイント減となっており、課題を感じている職員が増えています。次年度の教育課程の編成に向け、改善点を検討していきたいと思えます。項目12～14については、保護者と職員が同様の傾向を示しており、個別の行事については、一定の達成感を得られる内容になっていると思われれます。これまでの取り組みのよい部分を継続しながら児童生徒の実態に合った適切な内容の精選を進めていきたいと考えます。

IV 教育活動について

どの項目も保護者と職員の評価の傾向が一致しており、項目15、17、19、21については90%以上の高い評価を得ています。項目18の進路に関する情報提供や研修会については、今年度も、研修会の実施ができなかった影響が大きいのと思われます。次年度は、オンラインの開催方法も検討し、必要な情報を提供できるようにしていきます。項目20と項目22は70%前後となっています。地域資源の活用や地域貢献については、コロナ禍の影響で、校外での活動や、地域との関わりが少なくなってしまうことがあげられます。オンラインの活用を増やし、地域との関わりを学習活動に含めていけるように計画していきたいと思えます。そのためにも項目22のICT機器の活用の充実が必要不可欠であると考えます。校内での、タブレット機器の活用場面は増えてきており、学習の様子を保護者に伝えていくと共に、さらに学習機会を増やしていきます。

V 職員について

項目23、24は、保護者、職員ともに90%以上の肯定的評価でした。項目25については、職員評価が88%にとどまっており、保護者の自由記述の中にも、あいさつや言葉遣いについての指摘があるなど課題も見受けられます。日頃の振る舞いについて振り返り、信頼感を高めていけるように学校として努めていきます。

VI 児童・生徒について

項目26では90%以上の高い評価を得ており、自由記述でも学校に行くことを楽しみにしている子どもの様子について記載がありました。より一層、児童生徒たちにとって魅力のある学校生活づくりを目指していきます。項目26、27、28のいずれも、保護者の評価よりも職員評価が高く出ています。教師が実感している子供の成長と家庭で感じられている子供の成長に差異が感じられます。個別指導計画や面談などで子どもの様子について詳しく伝えていくとともに、社会生活につながる力を確実に身につけていくことができるように教育内容の充実を図っていきたく考えます。

今回のアンケートでは、本校に対する様々な思い、ご意見、ご要望など多数いただきました。学校として真摯に受け止め、今後も保護者の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちのためによりよい教育実践を行って参ります。

令和3年度 学校評価アンケートのまとめ

- (1) 対象者：保護者（回収率94.2%） 教職員（100%）
 (2) アンケート項目：保護者28項目 教職員32項目 ※1から28項目までは共通
 以下、質問項目及び結果を示す。

【評価基準】 1＝そう思う 2＝まあまあそう思う ……肯定的評価
 3＝あまりそう思わない 4＝そう思わない ……否定的評価
 ※数値の単位：A～Dは% 無回答は人
 （無回答を除外した数を母数として算出）

I 情報発信・連携

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
1	保護者に、学校目標や学校運営の重点目標をわかりやすく伝えている。	保護者	57%	37%	2%	4%		94%	98%
		職員	65%	26%	6%	3%		91%	92%
2	保護者に、各種たよりや連絡帳等で、必要な情報や子どもの様子をわかりやすく伝えている。	保護者	78%	18%	2%	2%		96%	96%
		職員	68%	21%	12%	0%		88%	97%
3	ホームページや学校公開（土曜スクール、学校見学会、オープンスクール）、公開研究会等で学校のことを外部に発信している。	保護者	51%	43%	4%	2%		94%	96%
		職員	56%	32%	6%	3%		88%	97%
4	担任や学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携を取りながら、教育活動や学校運営を行っている。	保護者	80%	14%	4%	2%		94%	96%
		職員	35%	35%	24%	3%	1	71%	97%
5	学校は、大学、附属学校園との連携、交流及び共同学習を進めながら学校運営を行っている。	保護者	41%	41%	12%	6%		82%	85%
		職員	24%	59%	18%	0%	1	82%	64%

II 環境・安全

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
6	学校内は、美化・整理整頓が行き届き、清潔感がある。	保護者	78%	18%	2%	2%		96%	100%
		職員	24%	59%	18%	0%		82%	83%
7	子どもが安心して学べるよう、安全な校内環境になっている。	保護者	78%	18%	2%	2%		96%	100%
		職員	29%	41%	21%	9%		71%	92%
8	校内に掲示されているお子さんの作品や活動の様子は、分かりやすいものになっている。	保護者	71%	22%	4%	2%		94%	100%
		職員	62%	26%	6%	6%		88%	97%
9	お子さんの様子の変化に目を配り、病気やけがの際の対応は適切であると思いますか。	保護者	76%	18%	4%	2%		96%	100%
		職員	71%	15%	6%	9%		85%	97%
10	学校は、地震災害への対応や、事故を防ぐための対応など、安全管理や危機管理に努めている。	保護者	67%	24%	4%	4%		92%	89%
		職員	47%	29%	21%	3%		76%	75%

Ⅲ 年間計画・行事

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
11	年間の計画は教職員、子ども、家庭にとって無理のない、適切なものになっている。	保護者	69%	22%	6%	2%		92%	98%
		職員	26%	35%	26%	12%		62%	72%
12	魅力のある学校行事（運動会やふよう祭など）が実現されている。	保護者	61%	29%	6%	4%		90%	93%
		職員	41%	50%	6%	3%		91%	92%
13	入学式・卒業式など儀式行事は、趣旨に合った適切なものとなっている。	保護者	59%	37%	2%	2%		96%	98%
		職員	56%	35%	9%	0%		91%	92%
14	各学部の行事は、子どもたちの発達段階に応じた適切なものとなっている。	保護者	65%	29%	4%	2%		94%	100%
		職員	50%	44%	6%	0%		94%	100%

Ⅳ 教育活動

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
15	教育活動は、子どもたちが自分から目当てと見通しをもって意欲的に取り組める内容となっている。	保護者	63%	31%	4%	2%		94%	100%
		職員	50%	44%	6%	0%		94%	100%
16	各学部の教育活動は、卒業後、自立し、働く活動を中心とした社会生活につながるような内容となっている。	保護者	63%	24%	8%	4%		88%	96%
		職員	47%	41%	6%	6%		88%	92%
17	教育課程の中心となっている、遊び、日常生活の指導、生活単元学習や作業学習は、児童生徒の成長に十分効果を発揮している。	保護者	67%	27%	2%	4%		94%	100%
		職員	53%	41%	6%	0%		94%	97%
18	進路に関する情報の提供や研修会は十分に行われている。	保護者	45%	41%	6%	8%		86%	85%
		職員	38%	32%	18%	3%	3	71%	78%
19	遊び、生活単元学習、作業学習は、他の取り組み（例えば、自立活動や職業/家庭）と連携が図れている。	保護者	59%	33%	4%	4%		92%	96%
		職員	44%	47%	6%	3%		91%	89%
20	「社会に開かれた教育課程」のために地域資源の活用や地域貢献など地域との連携を進められている。	保護者	35%	37%	22%	6%		81%	72%
		職員	24%	47%	21%	6%	1	71%	58%
21	個別的教育計画（個別の指導計画、個別的教育支援計画、個別の移行支援計画）について保護者と十分話し合い、経過や結果について丁寧な説明をしている。	保護者	69%	27%	2%	2%		96%	93%
		職員	47%	44%	6%	0%	1	91%	92%
22	パソコンやタブレットなどのICT機器を活用した取り組みは、有効に行われている。	保護者	35%	35%	24%	6%		69%	74%
		職員	41%	41%	15%	3%		82%	81%

V 職員

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
23	教職員は、熱意と情熱をもって教育活動にあたっている。	保護者	84%	8%	4%	4%		92%	100%
		職員	71%	21%	9%	0%		91%	100%
24	教職員は、子どもの気持ちを受け止めてきめ細かく対応している。	保護者	80%	10%	6%	4%		90%	100%
		職員	65%	26%	9%	0%		91%	97%
25	教職員の言葉遣い・態度など、職業人としてのマナーは適切である。	保護者	82%	10%	4%	4%		92%	98%
		職員	56%	29%	12%	3%		85%	89%

VI 児童・生徒

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
26	子どもは、「今日に満足し、明日を楽しみに待つ」学校生活を過ごしている。	保護者	80%	14%	4%	2%		94%	98%
		職員	56%	41%	3%	0%		97%	97%
27	子どもが、自分からやろうとすること（自分でやりたいと思うこと）が増えてきている。	保護者	69%	18%	10%	2%		88%	98%
		職員	62%	38%	0%	0%		100%	100%
28	子どもに、挨拶や着替え、社会のルール、働くことの意義など自立するために必要な力が身に付いてきている。	保護者	59%	27%	10%	4%		86%	93%
		職員	56%	41%	3%	0%		97%	94%

VII 附属の役割

番号	評価項目	回答者	1	2	3	4	無回答	R3	R2
								肯定的評価	肯定的評価
29	研究校として、実践的研究を行い、有用な取り組みを外部に発信している。	職員	44%	35%	21%	0%		79%	97%
30	県内や地域における特別支援教育の推進に努めている。	職員	35%	32%	26%	3%		68%	88%
31	大学や教育学部と連携が図られ、お互いに必要な関係となっている。	職員	32%	35%	26%	6%		68%	79%
32	教育実習生に必要なかつ適切な指導を行い、有為な教員養成を行っている。	職員	44%	24%	24%	9%		68%	97%

令和3年度 学校評価アンケートの結果

